

「夏目漱石と周辺の人々」展 開催中

今年度第2回目の特別展として「夏目漱石と周辺の人々」展を町歴史民俗資料館で開催しています。今回も前回の「篤姫とゆかりの人々」展と同様、御馬下の角小屋(熊本市)の橋本正勝館長の個人資料をお借りしての開催となり、期間は12月21日(日)までです。



たくさんの作品が展示されています

漱石が使用した机や文具類、ゆかた、池田駅(現上熊本駅)に着いたときに持参したトラUNKなどのほか、武者小路実篤、島崎藤村、高村光太郎、北原白秋など漱石の交流の広さを物語る多くの人々の作品も展示しています。

『三四郎』が発表されて100年となります。いま一度漱石の書物をご覧になってみてはいかがでしょうか。



生活記録『文集なごみ』第3集の原稿募集

日頃、忙しい生活を過ごして自分を見失いがちですが、自分を見つめる(知る)ためにも生活上の喜びや苦しみ、あるいは反省を記録にしてみてもいいでしょうか。様々な生活記録が、それを記録する人にとって、新たな発見につながり、今後の人生にとって大きな糧となることでしょう。また、これは和水町の今を後世に遺す歴史書となるものです。

公民館では、「鉛筆を握る運動」の一環として町民の皆様から、生活記録『文集なごみ』第3集の原稿を募集します。

皆様の投稿を心からお待ちいたしております。

■企画

- 記事内容…………… 社会生活、家庭生活、農村生活、団体生活、読書感想文、短歌、俳句、詩、随筆、子どもの教育など 生活に根ざしたもの
(※個人攻撃的なもの、公序良俗を害するものはご遠慮ください)
- 文字数…………… 2000文字以内(400字詰原稿用紙5枚以内)
- 特記…………… 投稿者は、住所・氏名・年齢・連絡先・行政区を記入願います。
- 発刊…………… 平成21年2月予定

■原稿提出締切り 平成20年12月15日(月)

■提出先 地区の産業文化部長 又は 和水町中央公民館・三加和公民館

■問い合わせ先 中央公民館(☎0968・86・2022)
三加和公民館(☎0968・34・3047)

ぶんげい



かなしき原句会

栗むいて思ひ出多き友と居る

住子

霧深く一人孤島に在る如し

新

人去りて水音もどり草の花

きよみ

秋桜揺らし遍路の鈴がゆく

幸子

秋桜活けて見舞の子は去りぬ

さち子

菊水俳句会

一人芝居の寂しき夜や根深汁

豊後 等

柿落葉赤青黄色拾ひけり

大群 初実

七五三カメラの前のすまし顔

永田 紘彦

グランドの部活の児らに時雨れけり

坂口 公子

駒下駄の鈴たのしむや七五三

中山ミサト

中央公民館 図書室だより



内田みのり(6才)・内田裕子(下津原)

就学前健診に来られていた親子にインタビューしました。

みのりちゃんはバムとケロシシリーズが大好きで、字も自分で読めるようになりました。

お兄ちゃんは音読の宿題があるのでよく図書室の本も借りています。以前は車の本が好きだったけど、今はかいけつゾロリの本に夢中です、と話していただきました。

新1年生のみのりちゃん、お兄ちゃんと仲良く小学校に行ってね!

「いじめられっ子のチャンピオンベルト」

著:内藤 大助/講談社

凄絶ないじめ体験、ボクシングとの出会い、『日本の恥』とまで言われた世界戦敗退から、チャンピオンベルトを掴むまでの感動の軌跡。そして、日本中の注目を浴びてしまった、あの防衛戦…。多くの挫折と“世界の頂点”を知る彼の姿は、ありのままの自分を愛する勇気を教えてくれる!世界チャンピオン・内藤大助初の自叙伝。



「The MANZAI」

著:あさの あつこ/ジャイブ

「おまえ、なんでそんなに漫才好きなの?」「なんてで、おもしろやつが一番やないか」「一番で…そうか、そうかなあ」「決まってる。勉強できたかて、スポーツできたかて、なんぼのもんや。たいしたことあらへん。やっぱ、おもしろやつが勝ちやで。絶対や、歩」漫才「ロミオとジュリエット」の行方は…?



「サンタクロースはおばあさん」

作・絵:佐野 洋子/フレーベル館

クリスマスが近づくと、神さまはサンタクロースを募集します。今年も、たくさんの方が面接にやってきましたが、その中におばあさんがひとりだけ、まじっていました。孫むすめに、もういちど会いたい。サンタクロースになったおばあさんは、夜の町へとびだします…。



「秘密のひととき」

著:赤川 次郎/集英社

超能力者の老人を訪ねた美智。身边にいいあてた彼の正体は!?見知らぬ少女が「お母さん」と母を呼ぶのを目撃した娘の困惑。十一歳の子役の少女には誰も知らない『スター』の顔があった。夫に先立たれ、娘も嫁ぎ退屈しのぎに家政婦になった章子が見たものは!知らなかった。あの人にこんな顔があるなんてー。普通の人々の「もうひとつの顔」仮面を外す5編の物語。



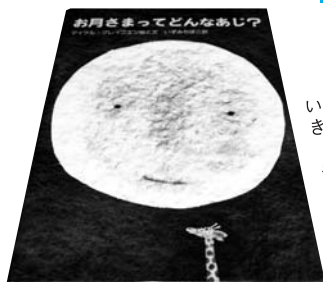
「お月さまってどんな味?」

絵・文:マイケル・グレイニエツ

訳:いずみ ちほこ/セーラー出版

『お月さまって、どんな味だろう』まんまるのお月さまを見ていると、そんな気になってきませんか?

カメ、ゾウ、キリン、シマウマ、ライオン、キツネ、そしてネズミがそれぞれ背中に乗り、段々に空に向かって高くなっていきます。お月さまと動物たちのゲーム、小さなネズミの働きが見逃せません。最終ページのサカナの一言も、気が利いています!



「江戸城・大奥の秘密」

著:安藤 優一郎/文藝春秋

花園の役割は、お世継ぎづくりだけではない。大奥女中はエリート官僚集団。將軍と密着した政治力を幕臣は恐れ、社寺は参拝客誘致のため参詣を切望。一大奥を制する者は天下をも握る。



●図書室の利用時間 午前9時～午後10時までとなっています。本の貸し出し期間は2週間までです。